

重要な構成要素「^{すいけいえん}邃溪園」

第1期 1929年（昭和4）完成

第2期 1929年（昭和4）着手、1968年（昭和43）完成

帝釈天の景観を構成する要素

邃溪園は、関東の名庭師永井^{らくざん}楽山が最後に手がけた庭園といわれ、東京都指定名勝となっています。邃溪園の名は築山から流れる滝が持つ^{ゆうすい}幽邃な風情から命名されたといわれています。約2,000 m²の広さを持つ寺院庭園で、北西部に滝を備えた築山を配し、滝口から落ちる水が東側の心字池に注がれる構造となっています。元々は、1929年（昭和4）に落成した大客殿から眺める座観式庭園でしたが、1984年（昭和59）に庭の外周に回廊が設けられ、視点をかえながら参道や境内の賑わいとは趣を異にする静寂に包まれた景を楽しむようになっていきます。



昭和 58～59 年頃



昭和 58～59 年頃

Suikei-en Garden

1929

Suikei-en Garden was said to be named so because of its waterfalls. In 1984, a corridor was installed in the circumference of the garden, so that scenery surrounded by silence, having an atmosphere different from the bustle of Sando (the approach) and the precinct, can be enjoyed while changing the point of view.